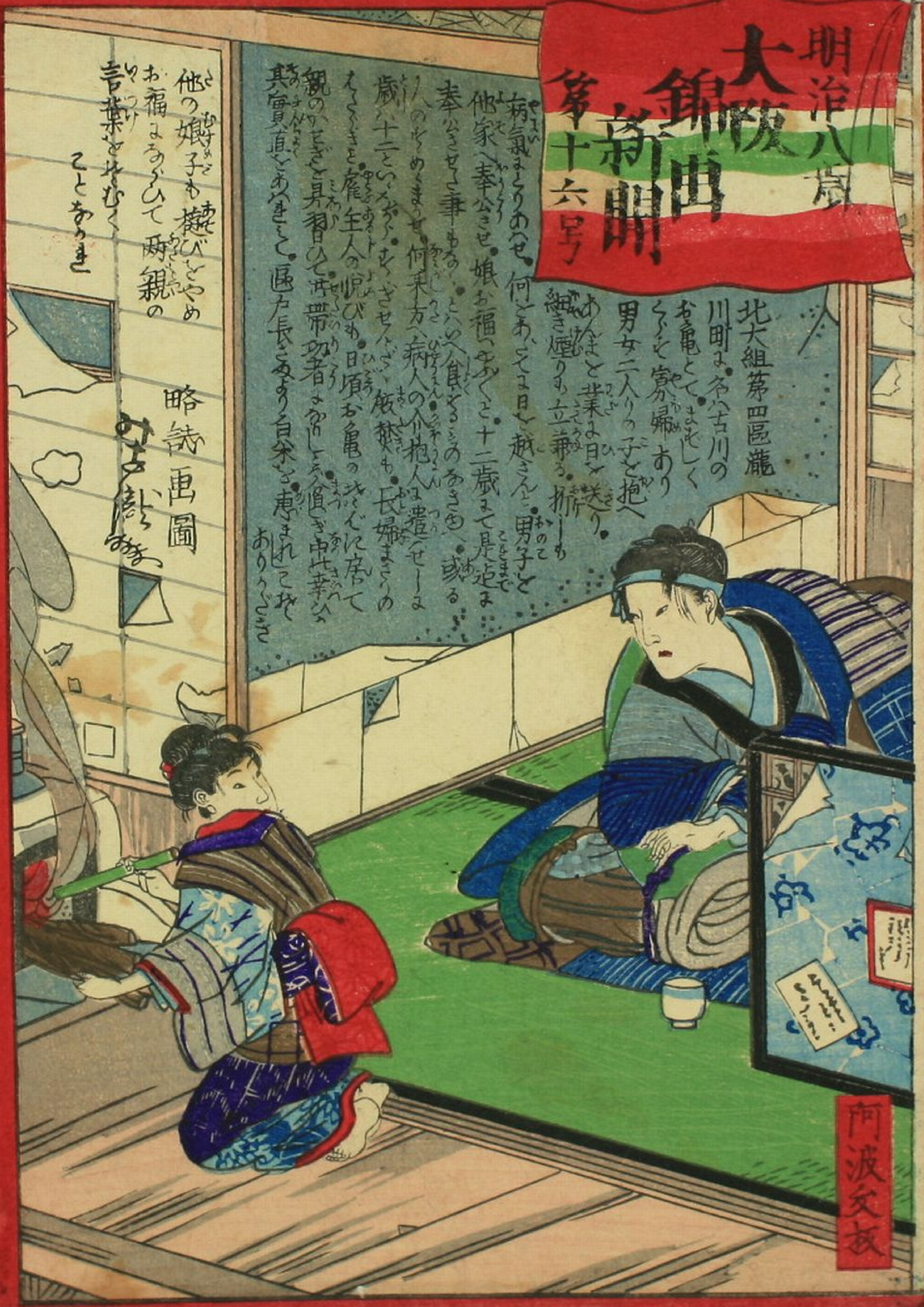
明治八歳
大阪錦画新聞
第十六号



北大組第四區瀧川町に・名ハ古川のお亀とて・まづしくくらす寡婦あり男女二人りの子を抱へあんまを業に日を送り・細き煙りの立兼る・折しも病氣にとりのへせ・何とあつて日を越さんと・男子を他家へ奉公させ・娘お福ハことし十二歳まで是迄に奉公させし事もなく・とへ人の食するものあさまへ・或る人のすゝめにまかせ・何某方へ病人の介抱人に遣はせしに歳ハ十二といへども・よくきかせんぞ飯焚も・長婦まさりのはたらきを雇主人の悦び・日頃お亀のそばに居て親のかせぎを見習ひて帯着物かりしも質に中七幸ひ其實直をきゝて・區戸長より白米を恵まれ近ごろおりうござ

他の娘子も遊びをやめお福にならひて兩親の言葉をそむくことなかりき

略読画圖

阿波文板